

# 港湾振興便り



2024. 10

第209号

\*:\*\*

## 目 次

\*:\*~

### 1 ポートエッセイ — 備えあれば憂いなし —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

### 2 トピック

- 「東京湾大感謝祭2024」を開催しました

(関東地方整備局 港湾空港部)

- 能登半島地震後「初」となる大型クルーズ船「にっぽん丸」七尾港寄港

(北陸地方整備局 能登港湾空港復興推進室)

- 高松港玉藻地区でみなと見学会を開催

(四国地方整備局 高松港湾・空港整備事務所)

- 志布志港 釣り文化振興モデル港 指定証交付式を開催しました！

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

- ＼昔と今の志布志を探検／ 志布志バーチャルツアーを開催しました！！

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

- 琉球海運新規RORO船「かりゆしⅡ」就航

(沖縄総合事務局 開発建設部 港湾計画課)

- 中城湾港泡瀬地区の人工島で「潮乃森ビーチフェスタ2024」が開催

(沖縄総合事務局 開発建設部 港湾計画課)

- 室蘭港が「釣り文化振興モデル港」に指定されました ～指定証交付式の開催～

(室蘭市港湾部港湾管理課)

- 「ザ・シンポジウムみなと in 紋別」を開催しました

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

- 国際クルーズ客船「シルバー・ノバ」がアジア圏初として釧路港に寄港しました

(釧路市水産港湾空港部港湾空港課)

### 3 お知らせ

◇イベント名:カーボンニュートラルのススメ@名古屋港

～みなが変わる！そして、みなとが世界を変える！～

\*:\*

#### 1 ポートエッセイ — 備えあれば憂いなし —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

\*:\*\*

1月の地震の復興途上にある能登半島に先月、豪雨が襲った。亡くなられた方々へ哀悼の意を表し、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

能登半島の豪雨に限らず、今年の夏は連日のように落雷、ゲリラ豪雨が発生。大型台風も日本列島を襲った。地球温暖化の影響で災害は激甚化とともに頻発化もしているように思う。

また、先般日向灘を震源とする地震の発生に伴って、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられたことから、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が初めて発表された。幸いその後この情報は解除されたが、リスクが無くなったわけではない。発表された当初はマスコミで大々的に報じられ、人々は災害に備えた。防災用品が売れ、店によっては棚から商品が消えた。

同様に8月に起きた令和のコメ騒動も地震、台風等の災害に備え備蓄用を買いためたのも一因としてあるのではないとも言われた。事が生じて意識が変わる。このように一人一人の防災意識の高まりは大切である。

私の住む新潟市では60年前の1964年マグニチュード7.5の大規模地震が襲った。被害は住宅、工場や店舗など建物はもちろん、道路、鉄道、堤防等の公共施設、電気、ガス、水道、電話などライフラインまで及んだ。中でも液状化現象が発生したことは世界から注目され、この被害を契機に液状化現象の研究が本格的に開始されるようになった。新潟市ではこの地震を教訓に毎年全市一斉地震対応訓練を行って備えているが、60年後の今年1月、能登半島地震の発生で再び液状化現象による被害を被った。現在、復興、再建に向けて邁進しており、住宅再建に向けた支援制度の説明を精力的に行っている。

人間は自然に対して無力だという。しかしながら、災害による被害の発生を未然に防止し、災害に強い国づくり、地域づくりのため、科学的知見に基づいた防災対策への取り組みは重要である。個人レベルでも、防災意識を高め、適切な備えを行うことが求められている。

「天災は忘れたころにやってくる」「備えあれば憂いなし」である。

\*:\*

## 2 トピック

\*:\*\*

### ●「東京湾大感謝祭2024」を開催しました

(関東地方整備局 港湾空港部)

9月28日(土)、29日(日)に東京湾再生への関心をもっていただくためのイベント「東京湾大感謝祭2024」を横浜市役所アトリウムで開催いたしました。今年で12回目の開催となり、多くの方々に来訪いただきました。(来場者数約10,000人)

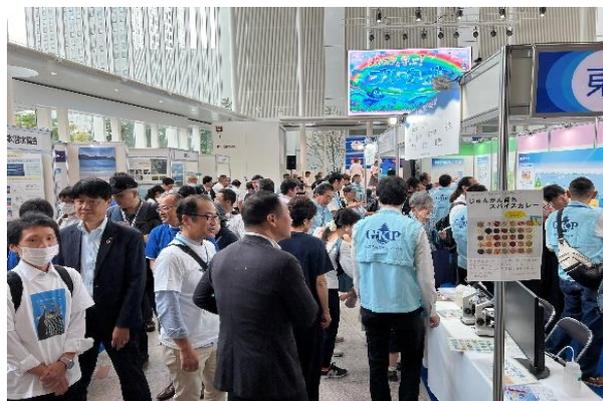
オープニングセレモニーでは、環境大臣政務官の朝日健太郎参議院議員、鈴木馨祐衆議院議員のほか、国土交通省の稲田雅裕港湾局長、横浜市の平原敏英副市長よりご挨拶がありました。さらに小池百合子東京都知事、黒岩祐治神奈川県知事、熊谷俊人千葉県知事によるビデオメッセージを頂きました。

会場では、ブルーカーボンなど東京湾の環境再生に関わる取組みや、食・観光など東京湾の魅力を紹介するステージメニューのほか、ゆるキャラ・PRキャラクターとのふれあいコーナー、様々な企業・市民団体・行政機関による40以上のブース展示など、多くのコンテンツを楽しんでいただきました。

関東地整は、ブースでのパネル展示や東京湾再生の取組みの動画上映、ゆるキャラの出演等でイベントを盛り上げました。



左から山縣宣彦実行委員長、來生新官民連携フォーラム議長、鈴木馨祐議員、朝日健太郎議員、稲田雅裕港湾局長、平原敏英副市長



会場内のにぎわい

●能登半島地震後「初」となる大型クルーズ船「にっぽん丸」七尾港寄港

(北陸地方整備局 能登港湾空港復興推進室)

令和6年9月19日午前、石川県七尾港の矢田新第一埠頭西側棧橋に商船三井クルーズの大型クルーズ船「にっぽん丸」(22,472トン)が着桟しました。にっぽん丸は、横浜港を9月15日に出港し、七尾港は3番目の寄港地で、七尾港へのクルーズ船寄港は、令和6年能登半島地震以後、初めてとなります。

雨のため船内で行われた歓迎式典では、七尾港整備・振興促進協議会長の茶谷義隆七尾市長が挨拶し、地元産コシヒカリ100キロが贈呈されました。

歓迎を受けた乗客は七尾市内の能登食祭市場や花嫁のれん館などを巡る観光ツアーに出かけました。「にっぽん丸」は、同日夕方、次の寄港地鳥取県境港市に向け出港し、大勢の地元市民らが風船を飛ばし見送りました。

矢田新第一埠頭西側棧橋は能登半島地震により、法線のズレや埠頭用地の沈下、亀裂などが生じましたが、利用制限があるものの係留は可能で、今回、埠頭用地舗装の応急復旧を行い旅客船の受入れが行われました。



矢田新第一埠頭西側棧橋に入港



幼稚園児によるアトラクション



出港を見送る地元市民ら

●高松港玉藻地区でみなと見学会を開催

(四国地方整備局 高松港湾・空港整備事務所)

港湾整備や賑わいの観点から高松港の役割を知っていただくため、令和6年9月11日(水)に高松港湾・空港整備事務所の主催により、高松シンボルタワー屋上広場にて、高松港玉藻地区のみなと見学会を開催しました。見学会には26名の方に参加いただき、参加者からは「高松港は大きく様変わりした。大変勉強になった。」など、多くの声をいただきました。

【U R L】<https://www.pa.skr.mlit.go.jp/takamatsu/main/kisya/pdf/240904kengakukai.pdf>



みなと見学会の様子



●志布志港 釣り文化振興モデル港 指定証交付式を開催しました！

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

令和6年8月7日に、観光資源として既存の防波堤等を利活用し、地域の関係者による地方創生を目的とした釣り文化振興の取組が進められている港湾として、志布志港を「釣り文化振興モデル港」に指定しました。鹿児島県内で初の指定となります。

同年9月22日には、地元関係者で構成された検討会で企画された釣りイベント「志布志港1日釣り開放DAY」の初開催に合わせて、指定証交付式を開催しました。

当日は、釣りイベントの参加者約70名に加えて、市・県・国の行政関係者及び(公財)日本釣振興会、商工会、観光特産品協会、建設業等の民間の関係者合わせて約40名にご参加いただきました。

釣りイベント当日は、残念ながら雨の影響により開始30分で中止となってしまいましたが、テレビや新聞にも取り上げられるなど、志布志港での釣りイベントの取組に対する注目度や期待度の高さをうかがえました。

今後も安全性確保と釣り利用を両立しながら、釣りをきっかけに地域活性化につながることを期待しています。



● \ 昔と今の志布志を探検 / 志布志バーチャルツアーを開催しました！！

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

令和6年9月28日(土)にパソコンやタブレット・VRゴーグルを使って気軽に昔と今の志布志の港町を知ってもらうために志布志バーチャルツアーを企画し、子どもから大人まで約30名が参加しました。

本ツアーは2部構成で実施し、第1部では志布志港のドローンによる上空からの映像や昔の町並みを写真で紹介し、普段見ることができないガントリークレーンの操縦や原木積込みの作業状況を映像で紹介し、志布志港のこれまでの発展を参加者と共に振り返りました。

第2部では、①ブロック製作現場VR体験、②枇榔島・防波堤の3次元データ体験、③志布志城跡CG体験、④3次元データスキャンの4つの体験を実際にDXに触れながら、志布志市の文化や歴史について知ってもらいました。

志布志城と密接に関連していた志布志港がどのように発展してきたのか、そして、その発展に港と建設業の仕事がどれほど貢献していたのか、体験を通じて知っていただけるような機会を今後も創出していきます。



●琉球海運新規RORO船「かりゆしⅡ」就航

(沖縄総合事務局 開発建設部 港湾計画課)

那覇港の海上物流を担う海運会社、琉球海運の新型ロールオン・ロールオフ型貨物船(RORO船)「かりゆしⅡ」が令和6年7月16日に就航し、船内内覧会が開催されました。

RORO船は、貨物を積んだ車両や荷台ごと輸送する大型船です。「かりゆしⅡ」は、全長181.51m、幅26m、総トン数11,614t、重量トン数7,240tであり、40Fトレーラー168台、乗用車281台分の輸送が可能となるほか、代替船「かりゆし」に比べた積載能力は約30%増となり、同社が所有する7隻のうち最大級の搭載能力を持ちます。

また、同一サイズの標準RORO船に比べて省燃費性能が29%削減され、環境への影響低減も期待できる船となっています。今後は、福岡・博多—鹿児島—那覇を結ぶ九州航路を週2回往復し、県内の経済発展に寄与していきます。

当局として、今後の船舶の大型化にも対応できるよう、港湾整備に努めて参ります。



「かりゆしⅡ」船内内覧会の様子①



「かりゆしⅡ」船内内覧会の様子②



新造RORO船「かりゆしⅡ」

●中城湾港泡瀬地区の人工島で「潮乃森ビーチフェスタ2024」が開催

(沖縄総合事務局 開発建設部 港湾計画課)

令和6年8月3日、沖縄市内で整備中の中城湾港泡瀬地区の人工島において、沖縄市主催の「潮乃森ビーチフェスタ2024」の開会式が行われました。

「潮乃森ビーチフェスタ2024」は、8月3日、4日、24日、25日、31日、9月1日、7日、8日の計8日間に渡り、ミュージックフェスタ、ワークショップ、フードフェスなど様々な催しが実施され、多くの来訪者が催しを楽しみました。

泡瀬地区の人工島は、沖縄総合事務局と沖縄県が造成を行っている土地で、そのうち沖縄総合事務局の造成している範囲については、中城湾港の整備に伴い発生する浚渫土砂を有効活用し、造成を進めてきました。

沖縄総合事務局は、8月3日、4日の二日間、沖縄県と共同で人工島整備の背景や経緯などの示すパネル展を実施し、整備の影響にかかる環境調査や今後の整備イメージパースを説明することで、整備事業に対する地域理解の促進を図りました。



開会式(沖縄総合事務局次長挨拶)



潮乃森ビーチの様子



中城湾港整備事業パネル展

●室蘭港が「釣り文化振興モデル港」に指定されました ～指定証交付式の開催～

(室蘭市港湾部港湾管理課)

令和6年8月7日、室蘭港が「釣り文化振興モデル港」(※)に指定され、9月8日に指定証の交付式を開催しました。

交付式は、むろらん港鉄人舟漕ぎ大会に併せて、多くの人で賑わう中で行われ、稲田雅裕国土交通省港湾局長の代理として、佐々木純国土交通省北海道開発局港湾空港部長から青山剛室蘭市長へ指定証が交付されました。青山市長は、「モデル港の指定を受け、今後、皆さんに安全に楽しんでもらえるよう釣り場開放に向けて協議を進める。室蘭港の魅力を全国に発信し、交流人口の増加につなげたい。」と述べました。

本港では、祝津絵鞆地区に集積する水族館や道の駅、温泉施設等の観光資源の魅力を生かした「まちのにぎわいづくり」の取組を推進しており、その一つとして、絵鞆臨海公園内の内防波堤及びボードウォークを釣り場の候補地として開放を検討しています。

令和6年6月に釣り場開放場所(候補地)で行われた実釣試験では、アブラコ、サクラマス、ヒラメ等全51匹の釣果がありました。

今後は、令和8年度以降の釣り場開放を目指し、安全対策や運営体制の検討整備、プレ開放を行う等取組を進めて参ります。

※国土交通省港湾局は、観光資源としての港湾における釣り施設や既存の防波堤等の利活用を進めており、地域の関係者による地方創生を目的とした釣り文化振興の取組が進められている港湾を「モデル港」として募集し、「釣り文化振興モデル港」として指定しています。



釣り文化振興モデル港指定証交付式

●「ザ・シンポジウムみなと in 紋別」を開催しました

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

本シンポジウムは北海道開発局などによる実行委員会が主催し、『紋別港の将来を考える～「みなと」を核とした交流人口の増加～』をテーマとして令和6年9月26日(木)に紋別市文化会館にて開催しました。

はじめに、『紋別港から発信する地域交流増加について』と題して、札幌大学の武者加苗教授より、観光振興等の観点より紋別港を拠点とした交流人口増加の方策についての講演がありました。

続いて、紋別市の宮川良一市長、みなとオアシスもんべつ運営協議会の竹内珠己代表、北海道立オホーツク流氷科学センター(GIZA)の大塚夏彦所長、武者加苗教授のパネリスト4名によるパネルディスカッションでは、みなとオアシスのエリアであるガリヤ地区での賑わい創出、オホーツク海を対象とした研究、GIZA・オホーツクタワーでの科学イベントや出前講座による交流、ふるさと納税日本一である紋別市の「ホタテ」を軸とした取組等、紋別港を核とした研究と観光による交流人口増加の取組について活発な意見が交わされました。



パネルディスカッションの様子

●国際クルーズ客船「シルバー・ノバ」がアジア圏初として釧路港に寄港しました

(釧路市水産港湾空港部港湾空港課)

9月27日(金)、シルバーシー・クルーズが運行する国際クルーズ客船「シルバー・ノバ」(55,051トン)が釧路港耐震・旅客船ターミナルに初寄港しました。本船は、2023年8月に運航を開始したばかりの新造船で、LNGを主な燃料とするほか水素燃料電池等を備え、SDGsとして環境へ配慮して運航されているクルーズ船であるとともに、今回の釧路港への寄港が、アジア圏の港湾への初寄港となっております。

平日の降雨の中での寄港となりましたが、多くの方が岸壁に会場し、歓迎いたしました。船内で開催した入港歓迎セレモニーでは船長と副市長の記念品交換や、釧路市からの花束、地酒、アイヌ工芸品の贈呈により、船長をはじめ関係者皆様に喜んでいただけたことと思います。併せて、箏と尺八の歓迎演奏も行い、日本伝統の音色を楽しんでいただきました。

また、岸壁上においては観光案内所や物販ブース、キッチンカーを設置し、お見送りの際は地元の高校生によるお見送りスピーチや吹奏楽演奏も披露致しました。

今後も、クルーズ客船の乗客や乗員の皆様により楽しんでいただけるよう取り組んでいきます。



入港歓迎セレモニー 記念写真



お見送り 地元高校生による吹奏楽演奏

\*:\*

### 3 お知らせ(みなとのイベント情報)

\*:\*\*~

◇イベント名:カーボンニュートラルのススメ@名古屋港

~みなとが変わる!そして、みなとが世界を変える!~

【開催日時】 令和6年11月15日(金)、16日(土) 10:00~15:30

【場 所】 名古屋港ガーデンふ頭 ジェティースト跡地

【概 要】 本イベントでは、カーボンニュートラルを目指す技術・取組についてご紹介するとともに、中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議による小中学生を対象とした次世代エネルギーを体感いただけるワークショップを開催します。

【問合せ先】 名古屋港管理組合 企画調整室(次世代エネルギー推進担当) TEL:(052)654-7983

【U R L】 <https://www.port-of-nagoya.jp/shokai/1004208/1004187.html>



株式会社大林組と株式会社三菱UFJ銀行は、11月15日(金)のみの出展です。実際の物ではなく模型やポスター等の出展の場合がございます。また、予告なく出展内容が変更になる場合がございます。

\*:\*:\*:\* 本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先 : \*:\*:\*:\* \*:\*:\*:

日本港湾振興団体連合会事務局
〒105-0002 港区愛宕1-3-4
TEL:03-5776-0630 FAX:03-5776-0631
e-mail:bcbf06323@nifty.com

\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*~